

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(175)

流行予測公開

公衆衛生のために整備されてきた下水に、新しい価値が加わろうとしている。

COVID-19が契

機となり、下水中ウイルス濃度をもとに感染症の流行情報を得る下水疫学が50カ国以上で研究されている。国内では、東北大学と仙台市がノロウイルスでの下水疫学の実績を生かし、COVID-19流行予測を国内最速で試行的に公開した。

札幌市も北海道大学と共同で下水中新型コロナウイルス遺伝子物質濃度を公表してい

高感度検出法の確立など、科学的検証や精度の高い手順の普及の努力がある。

新たな変異特定

る。11月第2週、3週と傘をもって外出し、

と続けて過去最高の値を更新したが、それに

応じて計画運休する。

今年9月にネイチャー誌で紹介された話題だが、ウイスコンシン

州の10万人以上の下水処理場で新しい特定の増殖が繰り返される中

で起る。多数の人や動物での感染に限らず、免疫不全の状態に

びかけている。

予報もできないかというアイデアは以前から

変異ウイルスが8カ月で起る。多数の人や動物での感染に限らず、免疫不全の状態に

ばり、30人未満の事業ある1人の体内で変異

が蓄積した報告もあり、高い情報発信と、私たちが一般市民の正しい理解と行動が両輪で重要

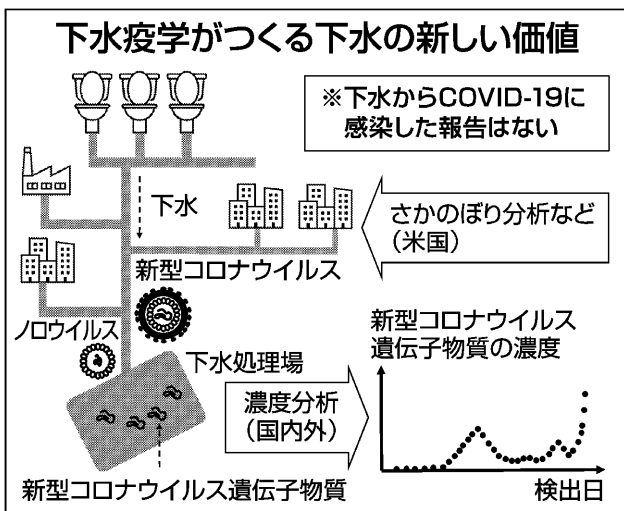
だ。下水疫学をさらに進められれば、将来のパンデミックでは、医学調査は、個人の人權を尊重し、社会の側でもより良く対策できるように

下水疫学でウイルス予報



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(環境・エネルギーユニット) 松村 郷史

大阪大学大学院工学研究科応用物理学専攻修士課程で製造開発、JSTや内閣府で基礎研究、プレベンチャー推進などに従事後、現職で環境・エネルギー分野の俯瞰や研究開発戦略立案を担当。



感染症対策には質の (金曜日に掲載)